

別の選択はないかと問うこと



法学部長
中島 康予
Yasuyo NAKAJIMA

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。また、これまでみなさんを支え、このよき日とともに迎えられた全てのみなさんに、心からお祝い申し上げます。

「グローバル化」が進む世界に目を向けることを厭わなければ、人びとの命が脅かされ、当たり前の暮らしや、ささやかな幸せや希望が奪われ、傷つけられている事実を私たちは知ることができます。価値や利益を異にする「他者」とのあいだに、境界線／分断線を引き、壁を築くことを選択したのは当たり前の暮らしや幸せを守りたいと願ったから、という人たちが数多くいます。他に選択肢はないと主張して「グローバル化」を進めてきた人たちに対して、別の選択肢があることを示しそうとしているのです。しかし、この別の選択肢は、「他者」の置かれている状況に目を伏せ、あるいは、無いものとする選択でもあります。

法律学や政治学を学んだみなさんに求められているのは、世界や社会で生起することを運命、宿命と捉えるのではなく、別の選択肢があることを伝えること、複数の選択肢を提示することです。多様な価値や利益を追求する人びとの交流を促進したり、そこに生じる紛争や対立を未然に防止したり解決することを通して、自由で平和な社会を築くことを諦めず、今、そこで、問題を抱えている人びとに寄り添い、その声に誠実に耳を傾け、問題解決に真摯にとりくむ人びとの存在意義に、私たちは既に気づいています。

ただ、そのようなとりくみのために、みなさんの生活の全てを擲ち、命を削るようなことがあってはなりません。働き方、生き方について別の選択はないかと自分自身に問いかけることも忘れないでください。

卒業生のみなさんが、それぞれの「持ち場」で、法律学・政治学の専門的知識をいかし、他者とともに意思決定を行い、行動に移す力、「行動する知性。」に磨きをかけ、活躍されることを願っています。



経済学部長
篠原 正博
Masahiro SHINOHARA

卒業生のみなさん、そしてみなさんを支えてこられたご家族のみなさま、ご卒業おめでとうございます。大学で専門分野の学問を修められたみなさんは、これからの新しい日本を築く方々です。心からの期待を込めてお祝い申し上げます。

さて、みなさんは新しい人生にわくわくされていることと思いますが、先に社会に出た先輩として、アドバイスを若干したいと思います。

若いみなさんにとって健康でいることは「当たり前」のことでしょう。しかし、仕事上のストレスや無理で心と身体のバランスを崩し、仕事や人生のゴールを前に倒れてしまった方をみしてきました。日々の食事に少し気を配るだけでも、結果は大きく違ってくるものです。例えば、みなさんが大好きな「焼き肉」や「牛丼」に「豚カツ」など…、脂身がおいしいですね。しかし、すき焼きを食べ終わった鍋をそのままにして、油が白く固まっているのを見たことはありませんか？ 食用の肉としては牛・豚・鶏が一般的ですが、牛も豚も鶏も体温が40度前後あり、その体温の中で脂肪が固まらずにいるのです。みなさんがご存じのように、人間の体温は36度前後です。その血管の中で白く固まった油をイメージしてください。動脈硬化の原因になりますね。唯一、鶏肉だけは油分の融点が低いため、動脈硬化に影響しにくいといえます。ただし「鶏の唐揚げ」をラード(豚油)などで揚げてなければのしませんが…。食事の度に、健康を意識し「選ぶ」ことで、ある程度の自己防衛ができることを覚えてください。

仕事の発想に常識など不必要ですが、仕事や日常の人間関係には、この常識が大切です。「今の若者は常識がない」と思われている現在、礼儀や感謝などの、みなさんが古くさいと思われる態度が個々の評価に大きくかわるものなのです。

私の中大生に対するイメージは、「素直で」、「真面目で」、「堅実」です。「ウサギ」と「カメ」に例えると、「カメ」さんタイプが多く、一步一步が着実です。これからの人生はサバイバルになるでしょうが、「時間を守る」、「約束を守る」、「挨拶をする」などの「当たり前」のことを当たり前に行える人になってください。みなさんのご成功をお祈りいたします。

「当たり前前」のことを当たり前前に